

Title	表紙・まえがき・プログラム・目次
Author(s)	
Citation	京都大学 附置研究所・センター シンポジウム：京都からの提言-21世紀の日本を考える (2007), 2
Issue Date	2007
URL	http://hdl.handle.net/2433/66386
Right	
Type	Others
Textversion	publisher



「新たな知の地平を拓く」
京都大学 附置研究所・センター
17 Research Institutes and Centers
Kyoto University

報告書

京都からの提言

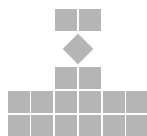
21世紀の日本を考える(第2回)



湯川・朝永両博士が拓いた世界

京都大学 附置研究所・センター

17 Research Institutes and Centers
Kyoto University



「新たな知の地平を拓く」
京都大学 附置研究所・センター
17 Research Institutes and Centers
Kyoto University

京都大学 附置研究所・センター シンポジウム
京都からの提言—21世紀の日本を考える(第2回)

報 告 書

ノーベル物理学賞受賞者
湯川・朝永両博士が拓いた世界
～湯川・朝永両博士生誕百年に因んで～



京都大学「京都からの提言」事務局編

2007年3月17日に、京都大学の17の附置研究所と4つの研究センターが協力して、読売新聞社の後援の下、大阪のエル・おおさか(大阪府立労働センター)エル・シアターで『京都からの提言—21世紀の日本を考える(第2回)』シンポジウムを開催した。本報告書は当日の記録をまとめたものである。

京都大学附置研究所・センターシンポジウムは、2006年3月16日に東京の品川インターシティホールでの開催を皮切りに以後10年間、政令指定都市を回って行うこととしている。第1回シンポジウムのテーマは「危機をいかに乗り切るか? 東アジアといかに向き合うか?」であり、防災研究所、経済研究所、人文科学研究所、東南アジア研究所の4附置研究所の教授にそれぞれ講演していただき、この方々に東南アジア研究所、経済研究所、一橋大学経済研究所、読売新聞東京本社の方々を加えてパネルディスカッションを行った。定員700人の会場は立ち見が出るほどの盛会となった。

今回、第2回のテーマは「ノーベル物理学賞受賞者 湯川・朝永両博士が拓いた世界～湯川・朝永両博士生誕百年に因んで～」とし、両博士がその仕組みを創設されたとも言える全国共同利用研究所と機能してる基礎物理学研究所、原子炉実験所、霊長類研究所、生存圏研究所の4附置研究所の教授にそれぞれ講演をお願いし、この方々に人文科学研究所、東南アジア研究所、大阪大学核物理研究センター、読売新聞大阪本社の方々を加えて「科学技術立国と科学者の社会的責任」と題するパネルディスカッションを行うこととした。今回も600人を超える参加者があり、成功裡に終了した。

第2回シンポジウムの事務局を担当した部局としては、至らないところが多々あった点にご容赦いただきたいが、何とか責任を全うすることができたのではないかと安堵の胸を撫で下ろしている。なお、今回の開催経費は、附置研究所とセンターが持ち寄った金額に、それと同等の総長裁量経費の援助を加え、読売新聞大阪本社

から寄附をいただいて賄った。大学への運営費交付金が年々削減されるという厳しい中で、引き続きシンポジウムの開催を財政的にもご支援いただいた総長のご配慮に心から感謝するとともに、読売新聞大阪本社のご支援に感謝する次第である。シンポジウムの継続については経費の削減と捻出がネックになると考えられる。今後も事務局担当部局は経費面で腐心されることであろうが、何とか継続に向けて知恵をしぼっていただきたい。

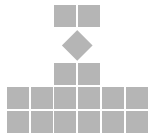
現在のところ、今回の第3回シンポジウムは2008年3月8日に横浜の新都市ホールで開催されることになっており、ウイルス研究所、再生医科学研究所を中心に準備が進められている。

さて、個々の研究所の規模ではとても東京大学に敵わないが、京都大学には学術上極めて特徴のある附置研究所・センターが数多く存在し、それが京都大学における教育研究に彩を添えて、自由な学風に支えられた創造性豊かな学術の礎となって、ノーベル賞受賞者の排出にも繋がっているものと確信している。京都大学の附置研究所・センターにおける類まれな研究成果の数々を『京都からの提言—21世紀の日本を考える』という形で継続的に発信し、社会の理解を得るとともに社会への還元を行う本シンポジウムの発展を心から願う次第である。

最後に、当日、ご登壇いただいた総長、講師各位、コーディネイター、パネラー各位、最初から最後まで熱心にご清聴いただいた参加者各位、シンポジウムの開催に当たってご協力いただいた京都大学附置研究所・センターの関係教職員各位及び読売新聞大阪本社の関係各位にも、この機会を借りて厚く御礼申し上げるとともに、事務局長の任に当たった原子炉実験所総務課長に深甚の謝意を表する。

大学の社会に対する説明責任を果たす一助としての機能が大いに期待される本シンポジウムの継続・発展を心から願い、筆を擱く。

京都大学原子炉実験所長 代 谷 誠 治



「新たな知の地平を拓く」
京都大学 附置研究所・センター
17 Research Institutes and Centers
Kyoto University

京都大学 附置研究所・センター シンポジウム
京都からの提言ー21世紀の日本を考える(第2回)

ノーベル物理学賞受賞者
湯川・朝永両博士が拓いた世界
～湯川・朝永両博士生誕百年に因んで～

日 時 : 平成19年3月17日(土)午前10時～午後5時
場 所 : エル・おおさか(大阪府立労働センター)エル・シアター

主 催 : 京都大学 附置研究所・センター

化学研究所／人文科学研究所／再生医科学研究所／エネルギー理工学
研究所／生存圏研究所／防災研究所／基礎物理学研究所／ウイルス研
究所／経済研究所／数理解析研究所／原子炉実験所／霊長類研究所／
東南アジア研究所／放射線生物研究センター／生態学研究センター／国
際融合創造センター／地域研究統合情報センター

後 援 : 読売新聞社

■ プ ロ グ ラ ム ■

- 10：00－10：15 **開会挨拶** 尾池 和夫（京都大学総長）
- 10：15－11：15 **講 演①**：九後 太一（基礎物理学研究所長）
「湯川・朝永両博士が残した宿題」
- 11：15－12：15 **講 演②**：代谷 誠治（原子炉実験所長）
「中性子利用が拓く科学技術、核物理からがん治療まで」
- 12：15－13：30 昼食休憩
- 13：30－14：30 **講 演③**：松沢 哲郎（霊長類研究所長）
「チンパンジーを通して人類の起源に迫る」
- 14：30－15：30 **講 演④**：松本 紘（京都大学副学長）
「太陽系文明の曙光と宇宙エネルギー利用」
- 15：30－15：45 休 憩
- 15：45－16：50 **パネル討論：「科学技術立国と科学者の社会的責任」**
コーディネーター：金 文京（人文科学研究所長）
ゲストパネリスト：土岐 博（大阪大学核物理研究センター長）
 本多 宏（読売新聞大阪本社編集局科学部長）
パネリスト： 松本 紘（京都大学副学長）
 九後 太一（基礎物理学研究所長）
 代谷 誠治（原子炉実験所長）
 松沢 哲郎（霊長類研究所長）
 水野 広祐（東南アジア研究所長）
- 16：50－17：00 **閉会挨拶** 川井 秀一（生存圏研究所長）

目 次

開会挨拶	京都大学総長 尾池 和夫 ……	7
講演1	湯川・朝永両博士が残した宿題	
	基礎物理学研究所長 九後 太一 ……	9
講演2	中性子利用が拓く科学技術、核物理からがん治療まで	
	原子炉実験所長 代谷 誠治 ……	29
講演3	チンパンジーを通して人類の起源に迫る	
	霊長類研究所長 松沢 哲郎 ……	45
講演4	太陽系文明の曙光と宇宙エネルギー利用	
	京都大学副学長 松本 紘 ……	61
パネルディスカッション「科学技術立国と科学者の社会的責任」 ……		77
コーディネーター	人文科学研究所長 金 文京	
パネリスト	京都大学副学長 松本 紘 基礎物理学研究所長 九後 太一 原子炉実験所長 代谷 誠治 霊長類研究所長 松沢 哲郎 東南アジア研究所長 水野 広祐	
ゲストパネリスト	大阪大学核物理研究センター長 土岐 博 読売新聞大阪本社 編集局科学部長 本多 宏	
閉会挨拶	生存圏研究所長 川井 秀一 ……	93

〔資料〕案内チラシ

4月4日付 読売新聞記事（大阪本社発行）

